

## 【一般外来研修プログラム】

1. 一般目標 (General Instructional Objective; GIO)  
一般外来の研修は、頻度の高い症候や疾病病態が広く経験できる外来において、指導医の指導の下、研修医が担当医師として診療を行い、適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決していく能力を養う。  
研修終了時には、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下において、単独で外来診療を行えることを目標とする。原則として初診患者の診療及び慢性疾患患者の継続診療を含む研修を行う。
2. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives; SBOs)
  - 1) 外来診療において経験する頻度の高い症候及び疾病・病態について、病歴、身体所見、検査所見から適切な鑑別診断を挙げ、病態に応じた初期対応を実践できる。
  - 2) 外来診療において経験する生活習慣病を含めた慢性疾患（高血圧・脂質異常・糖尿病など）に対して、継続診療を経験し標準的治療を実践できる。
  - 3) 問診・身体所見を通して、患者、その支援者と良好なコミュニケーション・信頼関係の構築を図ることができる。
  - 4) 診断・治療に必要な基本的検査および手技を実施できる。
  - 5) 必要に応じて、専門診療科へのコンサルテーションや開業医への紹介を計画することができる。
  - 6) 診療録を問題指向型診療録記録法に従って記載し管理できる。
  - 7) 多職種によるチーム医療の重要性を理解できる。
  - 8) 保険診療について理解できる。
3. 方略 (Learning Strategies; LSs)
  - 1) 経験の場：必修である内科各科（総合内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科）研修中に並行研修として、週1日、午前）、小児科（週2～4、午前）、地域研修（週3～5 午前・午後）で研修する。  
\* 午前・午後など半日で0.5単位とする。0.5単位の診療患者数は1～3人程度とし、2年間で最低20単位の研修が必要である。
  - 2) 指導医立会の下、外来にて初診・再診患者の診察（医療面接・身体診察）を実施する。
  - 3) 診察により得られた情報を指導医に報告（プレゼンテーション）し、その内容をもとに、その後の検査、治療、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーション依頼などについて指導医から指導を受ける。
  - 4) 研修医が検査や治療のオーダー、患者への説明、関連する医療行為、他科へのコンサルテーション依頼など必要な行為を行う。
  - 5) 当日説明可能な事項については指導医と相談の上、患者に説明する。
  - 6) 指導医の指導の下、処方薬を処方する。
  - 7) 次回の外来受診日を決め、注意事項を説明・指導する。
  - 8) 研修医は、診療後に外来診療を通じて行った行為、学んだ事項について指導医とともに振り返りを行い、臨床的疑問に対しては文献や電子テキスト（UpToDate、Clinical keyなど）を用いて最新の情報を収集する。
  - 9) 研修した内容をサマリとして纏め、指導医に提出して指導承認を受ける。
4. 評価 (Evaluation; EV)  
各外来診療担当指導医がその都度振り返りを行い、サマリの評価を踏まえて、EPOCに評価記録をする。